

【報告 消息】

・本日の講壇のお花は、芦澤實兄の召天（2007年4月18日）を記念して芦澤光二兄よりさきげられました

・週報用紙について

4月から週報用紙が新しくなり、これまでよりも薄手の紙を採用しています。昨年よりコロナ禍で週報などの印刷物を郵送しています。その際に内容物が重くなる料金がかさむため薄手の紙を選びました。

・4 / 11 礼拝出席者数報告

第1礼拝 24名

第2礼拝 31名

小学校礼拝 小1名 中高3名

・次週、ホザナ礼拝（中高生礼拝）を行います。1年ぶりです。若者たちの信仰成長のためにお祈りください。

■礼拝説教箇所について

*マタイの福音書

2021年度はおもにマタイの福音書を扱います（母の日、ペンテコステ、創立記念、アドベント、クリスマスなど、創立記念日には他の箇所を扱う予定です）。

マタイの福音書はイエス様の十二弟子の一人マタイが書いたと伝えられます。

新約聖書のはじめに置かれ、旧約聖書と新約聖書の橋渡しの役割を担う特色や内容です。書の構成は、五大説教が柱となり、説教と出来事が交互に配置されています。

全体を貫くテーマは「王としてのキリスト」です。特徴的な言葉は「天の御国」でマタイの福音書には33回出てきます。また、「教会」という言葉も四福音書で唯一用いられています。

マタイはユダヤ人に宛ててこの福音書を書いたと言われ、ユダヤ的な記述が多く見られます。一方で、冒頭にはイエスを最初に礼拝したのが異邦人である東方の博士であったことが書かれていたり、書の最後は世界宣教への励まし語られるなど、福音の世界性・普遍性が述べられています。

『あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい』という第二の戒めも、それと同じように重要です。

コロナ禍が世界を覆ってから1年以上が経過しています。この間、私たちはコロナから命を守るために多くの制約の中で暮らしてきました。ワクチンの開発、接種など終息に向けた期待も出ています。しかし、まだまだ先行きは見えません。

このような状況に多くの人がストレスを感じています。昨年、コロナ禍でクローズアップされた問題に、心のバランスを崩す人の増加や虐待などの増加がありました。未知のウイルスへの不安、また、感染を防止するための外に出ることを控えたり、人と会うことを制限することでストレスを自分

が対人関係を傷つけたり、自分自身を傷つけることに繋がったのです。人が抱えるマイナスの感情は上手に消化しないと他者や自分を傷つけます。厳しい時代だからこそ支え合って過ごしたいと願いながら、誰かを傷つけたら、自分が追いつめられることがあります。

マタイの福音書 22章 39節

冒頭の聖句はイエス様の言葉です。このみことばを聞く時、多くの人はポイントを「隣人を愛する」に置きます。それはとても大事なことです。しかしその前提として「自分自身のように」と言われていることを見逃してはなりません。自分を愛せる人が本

当に隣人を愛せるといふのです。

自分を愛する（自己愛）とは、わがままに振る舞う利己愛とは違います。聖書が示す自己愛は自分をケアするということです。

良きサマリヤ人のたとえ（ルカ10章）が分かりやすいでしょう。サマリヤ人は傷ついた旅人を介抱しました。そのような心を自分にも向け、疲れた時、傷ついた時には自分の状態を認めて自分を労るということです。それはまずイエス様が私たちに示してくださったことです。イエス様は弟子たちが疲れた時に休ませました。傷ついた人を癒しました。私たちを罪から救ってください

ました。その神の愛を知った人に、隣人を愛しなさいと告げておられます。ですから私たちは、神と人との愛を示す者となるためにも、自分を愛することを学びましょう。そこから隣人への愛が生まれるのです。（泰）